

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 2 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500131		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい八本松		
所在地	広島県東広島市八本松東5丁目8番34号 (電話) 082-427-3339		
自己評価作成日	平成24年2月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3492500131&amp;SCD=320&amp;PCD=34">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3492500131&amp;SCD=320&amp;PCD=34</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年2月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「医療法人好縁会」の経営理念をより具体的に事業所の目標とし1年間の目標を設定して具体的に実践をしている。</p> <p>☆利用者・家族・職員みんなの笑顔をつくるとして</p> <p>①入居者様をよく知り個別ケアをする ②地域にとって役立つ施設になる ③チームワークを大切に楽しい職場にする ④介護のプロとして自信を持って日々実践する を達成すべく日々取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・良質なサービス</li><li>・幸福な人生</li><li>・まごころこめて</li><li>・向上心</li></ul>
--	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>まだ開設して、1年しか経過していないが、職員は「笑顔」をキーワードに日々努力している。入居者の「笑顔」がたくさん見れるように、職員は、日常会話や家族からの情報を基に入居者の希望をかなえようと努力し、入居者の笑顔が増えれば家族も「笑顔」になる。また、働く職員も毎日「笑顔」で介護ができるように、職員一同チームワークを大事に、日々の問題を解決し楽しく働けるように努力している。地元の住民との交流をもっと大事にしたいと考えており、現在検討しているところである。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念をベースに事業所目標をより具体的に掲げ、管理者以下職員全員が個々の取り組みを計画し定期的実践状況を振り返りながら達成に向かって努力している。	法人の理念は、研修会で常に職員に説明し、共有するようにしている。職員は毎日のケアで疑問に思う時には、「理念」に立ち返り考えて解決している。また、事業所としての年間重点事業方針を設定し、年度末には評価し、次年度の方針を決定するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の散歩時は、出あった方に積極的に挨拶を行い地域に溶け込むよう努力している。また、近所のスーパーへの買い物や地域の行事への参加も区長さん等からの交流から情報を頂いている。	地域の町内会には未加入であるが、運営推進会議に出席される地域代表より、情報を得ている。地域の清掃活動に協力したり、秋祭りの際には、子供みこしがホームに来て交流した。今後は、近隣の保育園との交流を進めるなど、地域との交流を深めていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所内の行事等にご家族やボランティアの方にも参加いただき、時間の共有をしてもらっている。事業所での入居者様との交流や職員との実践状況を見て頂くことにより、取組や認知症の人の理解を深めることができている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一回の定例会議として開催している。毎回、実践報告や取組状況他、地域との交流が頻繁にできるよう新しい情報や連携方法についての提案等を頂いている。	定期的な運営推進会議には、行政・地域代表・家族代表・入居者が参加し、ホームの詳細な報告があり、活発な意見交換が行われている。ホームの行事である敬老会と同日に会議を開催し、ホームの様子を実際に見てもらおう工夫をしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議への参加を頂き、行政の情報や取組みに対しての意見等を積極的にもらうようにしている。日頃から、介護保険に関して他運営等に対しても疑問点や不安な点など相談し回答を頂いており協力関係を作っている。	運営推進会議に市の介護課職員が出席し、行政との事務的な手続きに関し相談し、橋渡しをしてもらっている。また、介護保険に関する相談は、市と相談し解決にあたっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者以下職員全員で、身体拘束等に関する研修を行いながら、意識を持って個人の尊厳を守ることの大切さを理解した対応を心がけている。 現状と対応方法についての詳細については行政等に確認しながら、判断実践している。	身体拘束をしないケアについては、法人が熱心に取り組み、研修を行っている。職員ミーティングの際には、介護上の些細なことでも、身体拘束に該当しないか検討している。「言葉の拘束」も身体拘束ととらえ、職員と考え取り組んでいる。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人開催の研修の中にカリキュラムが組み込まれており、積極的に参加するようにしている。 事業所内でも全体ミーティング等を利用し勉強会を行い認識の統一に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入所相談や、入所後のご家族面談等に必要に応じて情報提供したり、調べながら制度のことについて伝えるようにしている。 また、一般的な予備情報としてご家族に事例紹介等を兼ねて日常会話として話題の提供をしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	相談時点でも疑問点に対しては解りやすく説明するよう配慮している。 締結に際しては、不安・疑問点を確認しながら、納得するまで説明をするようにしている。 より、具体的にイメージが湧くようにしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には、職員とご家族等・本人様とも積極的にコミュニケーションを取るよう心掛けている。 取組状況の説明や、本人様の様子等も聞き取り、ご家族の希望等も組み入れた支援を検討し取組みの参考にしている。	家族の面会時に職員が積極的に話しかけ、要望を聞いている。ホームの外出行事に家族・職員も参加し、交流を深め意見交換を行った。家族からの要望で、ホームの行事に家族も参加する機会を増やし、職員と交流する中で、率直な意見交換をしていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の全体ミーティング開催により、業務の改善や問題点の洗い出し等を行っている。 また、スマイルノートによる意見の吸い上げの取り組みも実践していた。	職員は気づきをメモにし、スマイルノートに貼り、毎日昼休みに話し合いを行うなかで解決している。検討が必要な事については、月1回のミーティングで問題の解決にあたっている。その中で、2～3日に1回の買い物を毎日に変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	チャレンジシートの作成により、法人の理念・事業所の目標を理解し、自身の取り組みと実践の達成を評価している。 また、担当制を実施することでより実践しやすい環境を作りやりがいと責任を持つようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修に対して、個々の力量を考慮しながら、ステップアップができるよう研修の機会が得られる配慮をしている。 また、それを考慮したシフト作成や変更をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同法人での研修で交流したり、勤務異動により人脈づくりができることで、サービス向上等ができています。 外部の研修へ参加や地域包括開催の会議参加により、同業者とのネットワークづくりに心がけている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントを十分に行い、当施設入前の状況把握をするために、ケアマネジャーやご家族様からの細かな情報収集をするようにしている。 事前の面談を基本としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の不安や困っていることなど、十分に聞き取り、理解するように努めている。 また、入居にあたっての問題点等の把握にも努め今後の支援も含めて適切に助言できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前に状況を聞き取り、必要な支援を見極め概略の説明を行っている。 当施設でできるサービスとできないサービスの説明を明確にし、出来ない部分については代替え案や協力をお願いしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人様の能力を的確に把握するように努め、互いに協力しながら日常生活ができるようにしている。 掃除・洗濯たたみ・食事の準備・カーテンの開閉等共に協力して行うよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様と一緒に過ごせる行事を計画したり、問題解決する際の助言や協力を家族様をお願いしたりして、一緒に考えともに支える体制づくりに努めている。 面会に来やすい場づくりや対応に心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居後も以前より通われていた、馴染みの詩吟教室へ継続参加されたり、顔なじみの人と会える機会を持てるように配慮している。	友人や知人からの手紙に対する返事を、入居者と一緒に考え代筆し、馴染みの関係が継続するように支援している。通院時には、顔見知りの職員をなるべく訪ねるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご本人様の日頃の会話や行動を基に、居間での座席位置を都度考えながら、声掛け誘導する工夫を行っている。 難聴により、孤立しがちな方など職員が橋渡しすることでともに楽しく過ごせる努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も住み替え先の施設に職員が面会に伺ったり、必要に応じて情報提供をしたりしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の思いを聞き取りながら、もしくは生活歴より想像しながら、本人様にとって心地よい生活に近づく選択、支援方法を検討している。	職員は日常的な会話の中から、思いを聞くように努めているが、自分から話す人は少ない。家族からの情報や本人の生活歴から趣味などを把握し、個人の要望を推測し支援している。職員と一緒に過ごしたこと等から話がはずみ、本人の思いを知ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族様より生活歴や趣味嗜好についてお聞きしている。 入居後は、日々会話の中での情報把握に努めている。また、ご家族様に確認作業も行いながら情報整理をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々も申し送りや、定期的なモニタリング等を行いながら現状確認をしている。 また、各担当者が中心となってアセスメントを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族・医師・看護師・管理栄養士・介護スタッフ・計画作成担当等、より多くの専門職を交え現状把握やニーズ・支援方法等検討し介護計画の作成に努めている。</p>	<p>入居者毎に担当者を決め、担当者はアセスメント・モニタリングを行い、その記録を基に職員とカンファレンスを行う。その際には、管理栄養士・看護師・主治医からの意見も反映し、ケアプランの見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>生活記録や個別記録を記入し現状把握や情報共有を行っている。 必要に応じてスマイルミーティング等で、気づきを職員間で共有することで、改善や課題の見直し等の検討に活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>グループホーム内での生活に終始することなく、近隣美容室の利用や訪問美容室の利用、近隣歯科医院の受診や往診等本人様の状態に合わせて必要な支援を調整して提供できるように配慮している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>花見・秋の紅葉散歩・地域の祭り参加等、これまで楽しんできたことが継続して行えるよう集団・個別に計画実施できるようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所時に意向を聞き、希望されるかかりつけ医の選択をいただいている。 また、定期的に主治医の「往診」と医療連携をしている「訪問看護師」との情報共有等を実施している 必要に応じて、他の医療機関での受診等にもご家族様了解のもと情報提供によりスムーズに支援している。</p>	<p>入居時にかかりつけ医について相談し、家族の要望に対応している。ホームの主治医は週に1回往診し、入居者の健康状態を把握し、急変時には、医療連携の看護師からの連絡を受け対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携している看護師と、日常からのコミュニケーションを図り、常に相談報告を行いやすい関係づくりに努めている。 入居者の日頃と違った様子を気軽に報告できる関係づくりによって異変の早期発見につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供するとともに、面会等を行い現状把握と退院時の受け入れについて病院関係者やご家族と積極的に連絡できるような体制を作っている。 職員も積極的に、面会に伺い本人様の不安を払拭するように気を配っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	まず、入居時に意向があるか確認をしている。 その後、状態に応じて医師・看護師等と連携しながら、ご家族様と相談しながら本人・家族が困らないよう支援している。必要に応じて、病院・他施設等の情報も紹介できるよう心掛けている。	重度化した場合には、まだ環境が十分整っていないので、医療依存度が高い場合には主治医と相談し、適切な施設を紹介している。また、医療依存度が低い場合には家族と相談しながら、支援していくようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故等の対応については24時間看護師及び医師と連絡が取れるシステムがある。 応急手当や初期対応については、想定内での方法が医師により指示されおり職員は周知している。 来年度、消防署による救急救命講習を開催参加の計画をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	通報訓練と非難訓練を実施している。 また、東広島市からグループホームの夜間における避難訓練の実際を収録したDVDを借りて職員・入居者ともに視聴して今後の参考とした。 今後、地域の消防団等と協力体制を構築する必要がある。	消防署の指導があり、火災・災害に対する対応を職員で確認している。また、通報訓練を行ったり、避難訓練は入居者と一緒に行い、災害に備えている。	避難訓練等は実施されているが、今後は夜間の災害を想定した訓練を実施、災害に備えて頂きたい。また、地域と協力し避難訓練を行うなど、地域との協力を構築して頂きたい。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇・マナー等の法人研修に参加するとともに、声掛け方法やプライバシーの確保や人格を尊重した対応の方法を実践するようにしている。	法人全体で熱心に取り組み研修を行っている。入居者の名前をきちんと呼ぶ、命口調や行動抑制するような言葉使用をしないように、職員全員で努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自身の思いを表出しやすい場づくりや、関係づくりを行っている。また、自己決定しやすいような選択形式の質問等を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかなタイムスケジュールはあるが、日々入居者の状態も違っているので、適宜全体の様子を見ながら、希望を聞いて職員が変容して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服の選択が可能な方は、着替えを準備する際選んでもらっている。また、馴染の美容師さんに訪問して頂き施設内に美容室をしつらえて、カット等してその後メイクをし記念撮影をして家族にみてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好調査を行い、スタッフが考えた献立で家庭で食べているような食事の提供を心がけている。その方の経験と能力に応じた部分を手伝って頂きながら、食材の買い物や準備等を行っていただくように工夫している。	入居者の嗜好調査や食物残渣を、毎日の献立に参考にし、おいしく食べて頂けるように努力している。食事摂取量が少ない方には、個別に対応している。ホームの行事の際には、特別な食事を提供し、職員と一緒に楽しんでもらうよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	水分摂取は入居者ごとに工夫をして，脱水や便秘にならないように飲んでいただけるよう職員全員で取り組んでいる。また，体重や栄養状態・疾患等の把握に努め，管理栄養士からの助言や指導を受けながら，協力して家族とも相談して取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後，必ず口腔ケアを実施している。個々の能力に応じた必要な用具をそろえ自分で行っていただいたり，お手伝いしたり，声掛け誘導を行っている。義歯は職員が定期的に洗浄し管理している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	生活記録に排泄パターンがつかめるよう工夫し，個々に応じたケアができるよう支援している。アセスメントを行いながら，最少の排泄介助・自立に向けて，職員で取り組んでいる。	入居者の排泄パターンを把握し，その人に応じた時間に声かけをし，トイレ誘導している。排泄の自立に向けて，職員間で協議し，リハビリパンツを布パンツにし，排泄の自立につながった例がある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の状態に合わせて，医師・看護師・管理栄養士と相談しながら，食物繊維の多い献立を考えたり，水分摂取量を増やす工夫をしている。また，ラジオ体操や，簡単なストレッチ等も取り入れながら，薬に頼らない排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時間は，介護体制のこともあり，大体，午後2時30分から一日3名程度でゆっくりと入浴して頂くようにしている。体調や清潔保持の観点から，都度状況に応じて対応している。また，入浴時には職員とより多くの会話ができるよう努めている。	ゆったりと時間をかけ入浴してもらうように努めている。入浴時には，職員と世間話をしたりと，入浴を楽しんでもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様の睡眠時間帯に応じて、対応しており、起床時間や消灯時間は概ね決められているが、日々のその方の状況に応じて対応している。 夜間、時間が解らなくなったり不安で眠れない方にも安心して頂くよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報のファイルを備え、適宜処方状況や薬の薬効及び副作用等確認している。 飲み忘れ等が無いよう確認チェックを行い、服薬で状態が変わった場合等、看護師等に報告し、医師の指示を受けれる体制を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居時に趣味や生活の中での役割を聞いている。 また、入居後も本人様より情報収集しており、能力に応じ楽しんで生活ができるよう工夫をした対応をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族との外出や外泊は届け出て頂くことで自由に行っている。 また、ご家族との交流や外出支援を行事として計画実施したり、日々の買い物に出かけ、近隣散歩はできる限り行うようにしている。	寒い地域ではあるが、天候の良い日はなるべく散歩するようにしているが、個人の意向を尊重し、外出するようにしている。日常的な食材の買い物は入居者と一緒に出かけ、個人の買い物には、個人的に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在入居されている方は、お金を持っておられない。ご家族が全て管理されておりグループホームでも預かっている方はいない。 ただし、今後パンの移動販売等と交渉中で小銭程度を持って、自分の好きなものを購入し支払をするという生活行為を行っていく計画の調整をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在は行っていない。 難聴で電話でのコミュニケーションが困難であったり、手が震えて字が上手くかけない等難しい状況である。 代筆や、メッセージカード等職員と一緒に作成しご家族や身内に送る支援は行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具等の配置や、温度湿度の管理を行いながら環境整備をしている。 居間や玄関等も季節感のある室内装飾や花を飾ったりして、居心地良く過ごしていただくよう心掛けている。	入居者の健康に配慮し、温度・湿度には適切な環境設定をし、食事を作る際には十分に衛生環境に注意し、台所には専用の靴をはくなど配慮している。リビングには季節に応じた飾りを心がけ、安らいでもらうように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテレビの配置等職員で工夫改善している。 皆さん、それぞれの居場所を確保されており、居間で過ごされていることが多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた家具や慣れ親しんだ持ち物を持ってきていただいている。 いつでも面会できるようになっており、ご家族と一緒に居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。 状況によって、職員で検討し相談しながら安全に過ごせるよう室内の家具の配置換えも行っている。	今までの馴染みの家具や品を持ってきてもらい、過ごしやすい環境づくりに努めている。また、職員はお茶を出すなど、家族が居室でゆっくり談笑できるように心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の能力を考慮し、手すりや家具等でその能力を引き出せるようにしている。 また、必要に応じて様々な工夫をすることで自立した生活ができるよう検討実践に取り組んでいる。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい八本松

作成日 平成 24 年 4 月 6 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	施設内での生活が中心となっており今後は積極的に戸外での時間をもち地域交流を深めたい	積極的に屋外に出ていくことで、地域の方達と顔を合わせる機会を増やしていく	気軽に戸外で過ごす時間を多く持てるよう、ベンチの設置等環境整備をおこなっていく	3ヶ月
2	3	近隣の方や高齢者世帯の方々の相談窓口となれるよう当事業所の存在を知っていただける活動を行っていく	認知症・介護について事業所で持っている知識を困っている方たちに助言できる場として役立てる	活動状況のリーフレット作成・配布により、事業活動の内容や気軽に相談できる場があることを認識してもらう	6ヶ月
3	35	夜間の災害等を想定した避難訓練の実施と地域との協力体制の構築	安全に避難ができるような体制を作ることができる	地域の消防団との連携や近隣の協力を得られるよう、関係づくりを行う	1年
4	14	法人外での同業者との交流の機会を持つことで、サービスの向上と自事業所の取り組みの振り返りをする	入居者が生き生きと生活することができるケアを実施	積極的に外部研修に参加することで、同業他者の取り組みを把握し今後の参考にする	1年
5	20	馴染の関係継続と疎遠になってしまった方との交流を本人様の意向によってお手伝いできるよう支援していく	忙しくて疎遠になっている方たちと面会等のきっかけづくりを行う	行事の企画や案内等を実施することで、面会の機会が増えるようにする	6ヶ月
6	49	本人様の能力に応じた役割を持っていただき、張り合いのある生活が継続できるよう支援する	的確なアセスメントにより、日常の生活内での役割を担うことで意欲を持って過ごせる	掃除・洗濯・調理・畑仕事・花の手入れ・買い物・カーテンの開け閉め等をスタッフと一緒にを行う	3ヶ月
7	51	本人様の能力に応じ、手紙や電話など活用して日頃交流が困難な方たちとの繋がりを生きたる活力につなげていく	特に遠方に居住してなかなか交流ができない人との御縁つなぎをする	本人様と家族様等の仲立ちをし、調整役をすることで、馴染の関係を維持、継続していく	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。